

技術開発課題完了報告書

19

東北森林管理局 米代東部署

課 題	広葉樹施業体系の確立 (ササ枯死跡地のブナ天然林更新経過に関する調査について)					開発 期間	H9～H18			
開発箇所	米代東部署 3048ら11	担当 部署	センター一部会	共同研 究期間	森林総合研究所 東北支所	技術開 発目標	1	特定区 域内外	●	
開発目的 (数値目標)	チシマザサの自然枯死によるブナ天然林の自然力を活用した天然林施業技術開発に寄与する。									
実施経過	<p>平成9年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 調査場所の確定と試験地の設定 2 各区の稚樹調査 3 各区の実生ササ・再生ササ調査 4 各区の照度条件調査 5 林分調査 6 樹冠投影図 7 枯死ササの調査 <p>平成10年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各区の稚樹調査 2 各区の実生ササ・再生ササ調査 3 各区の照度条件調査 4 枯死ササの調査 <p>平成11年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各区の稚樹調査 2 各区の実生ササ・再生ササ調査 3 各区の照度条件調査 4 枯死ササの調査 5 調査結果の取りまとめ(中間) <p>平成12年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各区の稚樹調査 2 各区の実生ササ・再生ササ調査 3 各区の照度条件調査 4 枯死ササの調査 					<p>平成13年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各区の稚樹調査 2 各区の実生ササ・再生ササ調査 3 各区の照度条件調査 4 枯死ササの調査 5 樹冠投影図の作成 試験地内母樹の一部に被害(枯死倒木)が発生したことから樹冠投影図を作成した <p>平成14年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各区の稚樹調査 2 各区の実生ササ・再生ササ調査 3 各区の照度条件調査 4 枯死ササの調査 5 調査結果の取りまとめ(中間) <p>平成15年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各区の稚樹調査 2 各区の実生ササ・再生ササ調査 3 各区の照度条件調査 4 枯死ササの調査 <p>平成16年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各区の稚樹調査 2 各区の実生ササ・再生ササ調査 3 各区の照度条件調査 4 枯死ササの調査 <p>平成17年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各区の稚樹調査 2 各区の実生ササ・再生ササ調査 3 各区の照度条件調査 4 枯死ササの調査 				
開発成果	<p>調査結果等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 9年間で枯死した稚樹の樹高成長経過 <ul style="list-style-type: none"> ・ 初期成長の大きなダケカンバ稚樹では、梢端の一部枯死したり折損するなど、樹高が前年より減少した個体では、その翌年ないし翌々年の間に大部分の個体が枯死に至るといった特徴的な傾向がある。 ・ 生存個体の代表(高・中・低成長の個体)の成長が前年より減少した個体は、今後枯死する可能性が大きいと判断される。 ・ かなり大型になった稚樹でも、野ねずみの食害等のなんらかの要因で生育障害が起これば、その大部分がやがて枯死することが判明した。 ・ 食害と共に樹高が前年よりも低下したものは、その後ほぼ枯死に至ることが明らかになった。 2 実生稚樹の定着 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実生稚樹の確実な定着試験内プロット位置の違いによる生育条件の差が、稚樹の樹高生長に影響している傾向が見られる。 3 留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 明るさの条件の良い箇所では、ササの回復がかなり勢い良くなってきており、既に2mを越す丈のものが生じていることも考慮する必要がある。 									

4 更新完了

更新の完了時期とは、稚樹に生育障害が見られなくなった健全個体が、一定数確保された時点である。

(1) 更新完了のみなし

- ・ダケカンパの樹高が5mを超える個体が多数となった時
(平均で3m程度)
- ・ブナはササの高さを超えて樹高3m以上のものが多くなった時
(平均で1.5m程度)

(2) 更新完了時には

基準以上の樹高の健全な個体が一区10㎡に数個体あれば、HA当たり数千本以上となる後継林分が成立していくのではないかと期待される。

※ 現在、東北局の更新基準と照らし合わせ取りまとめ中であるが、東北局の更新基準と上記(1)との関係については、年度内に整理する予定である。